



# 学校だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yabe/>

令和 5年 5月 31日

## 6月号

横浜市立矢部小学校  
校長 山口 恭史

### 心のはばを広げる

校長 山口 恭史

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類になり、学校の教育活動の制限もなくなりました。この3年間行っていなかった水泳学習も今年度から再開いたします。4年生以下の子どもたちにとっては、小学校で初めての水泳学習です。学年ごとに2時間の水泳学習を4コマ~5コマ、計10時間ほど学習する予定です。発達段階に応じて学習する内容は定められていますが、子どもたちの実態に合わせて、丁寧に段階を踏んで進めていく予定です。準備する物等は別紙でお知らせいたしますので、ご確認ください。そして、気温が上昇してきて、熱中症が心配されます。今もマスクを着用している子がありますが、体育時の種目によってはマスクを外すよう指導します。それでも外すことに抵抗がある子については、運動の制限をかけることがあります。また、ロイロノートによる連絡については、学校の担当者の確認と返信は、原則勤務時間内になることをご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

赴任して3年目になりますが、矢部小の子どもたちは、許す気持ちをもって他者を受け入れられる、心のはばの広い子が多いと感じています。学校にかかわる人たちからも、矢部の子は優しいとよく言われます。そのことはとても素晴らしく、大切な長所であると感じています。昨今、心の許容範囲がせまくなり、生きにくくなっていると言われるのを耳にすることがあります。これまでの教員人生においても、「仕方ないか。」「まあいいか。」と、他者を許せず関係性が崩れ、トラブルになることを目にするものが多くありました。人を許しにくい人は、人から許されにくくなると思います。また、自分を許すことも時には必要で、自分を許せない人は他人も許しにくくなる面もあるのかなと思います。許容する心を少し広げると、生き易くなり、周りの人との関係もよりスムーズになることともあります。

人はつながりの中で生きています。矢部小の子どもたちが互いを受け入れ合うことによって、より理解を深め、安心して笑顔で毎日を過ごして欲しいと願っています。そして矢部の子の素晴らしい長所を、これからも伸ばしていきたいと思います。今後とも学校へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。